

「 木枯らし一号に祈る 」 (協同組合通信/金曜論弾) 15.11.21

11月17日午前9時43分、気象庁のある東京大手町で瞬間風速16.4m/sの北風が観測された。

やっと、晩秋から初冬を迎える季節の使者の便りが聞かれほっとした。

この瞬間風速は、春先の春一番や台風の上陸時に、しばしばマスコミで報道され話題となる。風は息をしており、風向・風速とも絶えず変化し一定ではない。

よって、瞬間には通常の風速(10分間の平均風速をいう)の1.5倍~2倍程度以上の風が吹く。当日の8時から9時頃の東京の風は、北よりで平均8m/s程度は吹いていたと推定できる。

一日中、やや強い北風で、大気中のちりが吹き飛ばされ久し振りに空が青く澄み切った。北風小僧の一吹きに思わず衿を立てたが、眼に心地よい大空の広がりを楽しんだ。

さて、木枯らし一号は、その年に吹いた最初の木枯らしをいう。ちなみに、木枯らしとは、冬型の典型的な西高東低の気圧配置の時に吹く北より(北から西北西の方向から吹いてくる風)のやや強い風のこと。

その定義は厳密で、時期は10月半ばから11月末まで。風の強さは最大風速が8m/s以上。観測地点も東京と大阪のみで、その他の地方では観測されていない。

また、正式な観測情報の発表はなく、そろそろ冬が来ますよというお知らせ情報である。

さらに、気温が前日より3度以上低くなることも目安(現在では、必須条件ではなくなった)。今年は、全ての条件を満たす立派な木枯らし一号となった。なお、大阪では未だ吹いていない。

この半年、梅雨の頃から不順な天候続きで10年振りの大冷夏。ために、大不良の米を筆頭に我国の農業に大きな被害を与え天災融資法が適用された。

関東地方の梅雨明けは2週間程度遅く、律義にも木枯らし一号までお付き合い。

さて、木枯らし一号が遅く吹いた年は、雪が多く寒い冬となるとの統計もある。

まだまだ今冬の推移は予断を許さないが、せめて冬らしい冬になって欲しい。

景気は天気という。夏から秋にかけ、多くの商戦は不調に終わった。

スキー場が大雪で、農閑期の近在の農家や遠方からの行楽客で賑わうことを切に祈る。

(気象情報システム株式会社 高津 敏)